第３学年　社会科の実践

１　単元名　「わたしたちのまちと市」　（全２１時間　本時１６時間目）

２　単元目標

単元目標 〇身近な市の様子を大まかに理解するとともに、調査活動や地図帳などの資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身につけることができる。 〇身近な市の場所による違い、人々の生活との関連などを与え、考えたことを表現することができる。 〇身近な市について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情をもつことができる。

３　「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題　　「子どもが解決したい問題をもち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」 手だて・・・子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり ブロックテーマ・・・「追究する力、仲間と支え合う自分」 ・自分の問題をとことん追究する姿 ・仲間と協働して追究する姿

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

話し合いが活発になるように意図的にいろんな子と関われるような座席を作成し、グループ活動を多く取り入れることで、少しずつ子どもたちが友だちと話せる環境ができてきた。また、係活動や総合のテーマごとでの活動では、自主的に友だちと関わり、よい活動ができるような姿が多くみられた。なかでも係活動では、クラス遊びや誕生日会などを通して、クラスのみんなが楽しむためには計画をみんなで話し合うことが必要であることに気づいた。全員で話し合うことでよりよい活動になることを学んだ。

学級の児童の力を十分に発揮させるには、単元やその時間のめあてを明確にし、児童に見通しを持たせることが必要である。また、視覚的な支援や十分な活動の時間を確保することも大切である。話し合いの場では、「自分の意見をもてる」ことを大切にしたい。そして、話し合いのルールなどを意識させながら、「友達の意見を聴いてよりよいものを考える姿」をひびき合える姿をめざしたい。

４　単元と指導について

（１）　単元と指導

〈単元について〉

本単元は、次の学習指導要領の内容を受けている。

内容（１）「身近な地域や市区町村の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。」 ア　次の知識及び技能を身に付けること （ア）　身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解すること （イ）　観察・調査したり地図名などの資料で調べたりして、白地図などにまとめること。 イ　次の思考力、判断力、表現力等を身に付けること （ア）都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え表現すること

本単元では、身近な地域や市の様子を探検や調査活動を通して、課題を追究・解決し、自分が住んでいる町や市の特徴を知り、地形を生かしたよさに気づき、まとめることができることがねらいとしている。

小単元「まちの様子」で町探検を行い、自分たちが住んでいる身近な地域や自分たちが通う学校の周辺地域とは様子の違うところが市内には存在する。このことに気付くことによって、市全体の様子に興味をもち、その違いを「市の地形と土地利用」「交通の様子」「小田原の歴史を伝えるもの」「市にある公共施設」に着目して比較する。本単元では、市全体へと広がるため、実際に見学できないところは、調べ活動や地図や資料を活用する必要感が生じる。そのため、地図や資料の読み取り方を身につけたり、読み取ったことを複数の条件を関連付けて考えたりすることができる機会となる。そして、身近な地域や市の様子をとらえ、場所による違いを考え、表現するという資質・能力を高めることを目指して、市の各地域の様子を調べ、違いを比較することでとらえた特色を地図にまとめていく学習が有効と考え設定した。また、調べ活動を通して、小田原市のよさや魅力を発見し、地域への誇りと愛情をもつことができると考える。

〈指導について〉

導入で、町探検（方位別）を行い、自分が住んでいる身近な場所から興味を持たせる。次に、小田原城の天守閣から四方位で町の様子を観察し、違いや特徴に気づいたり、よく分からない場所や遠くに見えるものは何か疑問をもったりする。また、町探検で多くのお土産を目にした「小田原のお土産」をいくつか取り上げて、小田原市には自分が住んでいる地域だけでなく、もっと他の地域があることや地図を見て位置を知り、「小田原についてもっと知りたい。」という思いをもたせる。

お土産調べから課題を焦点化し、「小田原にいろんなお土産があるのは、なぜだろう。」という問いから、「たくさんの観光客が来るから」「おいしいものがあるから」など予想を立てる。そこから、山・川・海の自然に恵まれている特徴や果樹や魚などを使っているお土産を関連させ、市の地形と土地利用に気づかせていきたい。次に、小田原の歴史を伝えるものを調べることを通して、小田原宿で宿泊する人のために土産物が多くあり、今でも伝統を引き継ぎ売られていることにも気づくことができる。また、交通の様子、市にある公共施設についても関連づけてまとめていけるようにする。

本時で児童が解決したい学習問題は、「なぜ海の近くにかまぼこやひもののお店が多いのだろう。」である。話し合うポイントを絞ったり、活動をふりかえり、伝え合いの場を意図的に設けたり、子ども同士の関わりを大切にしていきたい。調べ活動では、地図や資料（わたしたちの小田原など）を根拠に話せるように、「発見！カード」に調べたことをメモしやすいようにする。

本時展開の伝え合いの場面では、全体での話し合いが活発になるように、次の手立てをとっていく。

１つ目は、２段階の場の設定である。【ステージ１：グループで自分の考えを伝える。】「発見！カード」に書いたことをグループで全員が発表して、自分の考えを意思表示できるようにする。その際、考えの根拠も合わせて伝えることや友達の考えを聴くことで、ものの見方がより広く深くなることを実感できると考える。

【ステージ２：他のグループをまわる。】前半は「見るタイム」として他のグループとの相違点を見つける。後半は「書くタイム」で見たことをワークシートにまとめる時間を確保する。その際、聞き直したいことがあれば聞ける時間も、子どもの様子によっては確保したい。前半と後半で時間を区切ることで、他のグループの考えをじっくり見てメモする時間と関わり合う時間をお互いに確保できる。他のグループをまわることで、関わりながら学ぶことの面白さに気づかせたい。

２つ目は、「伝え合いのメニュー（手順）」の提示である。「伝え合いのメニュー」の中に、相違点を見つけるだけの一方通行になってしまわないように、関わり合うためのアイテムとして、「〇〇さんが言いたいことは、こういうこと？」「〇〇さんはどう思うの？」「くわしく教えて。」「もう一回言って。」「つけたして言うと」「〇〇さんは～と考えたのかな。」などの言葉を提示しておく。関わり合いがあまりできていない場合、教師の出どころとして、関わり合いの言葉を声かけする。

全体で共有する場面では、分かったことを発表させ、児童の言葉を整理して板書することで、教師の出どころとして、学習課題から学習のまとめへ焦点化していく。本時は「市の地形と土地利用」のまとめなので、それぞれの地区で魅力があるだけでなく、地形を生かしていることにも気づかせていく。「もし、自分がその地区に住むとしたら」と問い返し、自分事として切実感をもたせ、「自分だったら、その土地に合ったものを考えて作る。」など、地形の特徴を生かして土地を利用していることに気づくことができるのではないかと考える。

本時では、仲間との伝え合い活動を通して、自分の考えを広げ深めていく姿をひびき合いの姿とし、ブロックテーマ「仲間と支え合う自分」を高めていきたい。

５．単元構想　３年社会科「わたしたちのまちと市」　全２１時間目　本時１６時間目

単元目標

○身近な市の様子を大まかに理解するとともに、調査活動や地図帳などの資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身につけることができる。
○身近な市の場所による違い、人々の生活との関連などを与え、考えたことを表現することができる。
○身近な市について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情をもつことができる。

理科で春の生き物を探しに慰霊塔（城山公園：高い所）にいったよ！高い場所と低い場所でまちの様子が違うね。（西方面）

2年生のまちたんけんをふりかえろう①

・コースごとに回ってみてきたから学校の周りは知ってるよ！　・あれ、どこに何があるか全然覚えてないよ…。
・三の丸ホールは学校より右側だよ！・自分のお家はこの辺だよ。・二宮神社かな。松原神社かな。二宮神社は学校より下のほうだったよ。・方位を使うと説明しやすいな。　・まちのことをもっと調べたい！　・学区を上から見るとわかるかな

わたしたちのまちのことをもっと知りたいな！②③④⑤⑥⑦⑧

まちたんけんのルートをかくにんしたいな②

東西南北応援団で身体を動かしながら、東西南北を学習し、空間認識をもたせる。
（資料◇教科書動画）

・黄色やピンクコースに行きたいな。　・赤と青コースはどこから行くのかな
・そっちはぼくの家があるよ！！
・でもさ、建物の場所をメモするのに方向がわからないよ。どうしよう。
・方位磁針があるとわかりやすいね。・地図があるとべんりだね
・東西南北応援団をつかえるね。

身体を動かしながら方位の名前や方向をたしかめ、地図記号について理解することができる。（知・技）

黄色・ピンクコースはどんな様子かな（東・南方面まちたんけん）③④

【国道一号線】車がたくさん通っていたね。病院や消防署、郵便局もあったね。金次郎カフェもあったよ。かまぼこ通りにはかまぼこ屋さんがたくさんあったよ。なりわい交流館で休憩したね。
【西海子通り】お店が少ないね。静かでお家がたくさんあるよ。文学館もあったよ。
【青物町横丁】小さなお店がたくさん並んでいるね。シャッターが閉まっているお店が多かったな
・もう書くスペースがないよ。・地図記号を使えば簡単に正しい場所にかけるんだね。
・駅のほうの様子はどうなっているのかな。調べたいな。

上（天守閣）からまちの様子を見てみたいな⑤⑥

・南には海が広がっているね。西湘バイパスもあるよ。
・近くには小田原駅が見えるよ。あれは何線かな？
・北はお店がたくさんあるね。ミナカも見えるね。
・西には山がたくさんあるね。城山中学校や相洋高校もみえたよ。建物が少ないね。
・東はお家などの建物がたくさんあるね。遠くに江の島が見えたよ。
・方位によって建物や人の多さ、自然が全然違うね。
・遠くにまちが見えるよ。小田原はもっとまちがあるのかな？・どんなまちがあるのかな？

赤・青コースはどんな様子かな（北方面まちたんけん）⑦⑧

【お堀端通り】・観光客がいたね。・裁判所や郵便局が見えたよ。
【小田原駅】・平日の朝なのに人がたくさんいるね。・小田急線や箱根登山線もあるね。・新幹線も通っているよ。
・わあ！大きな提灯があるね！ここは東海道線だね！・大雄山線の改札に大きな天狗がいたよ。
【駅前】・お土産屋さんがあるね。・鈴廣・籠清など、かまぼこやさんがたくさんあるね。
・いいにおいがするなあ。なんの匂いだろう。　・さつま揚げがうってるよ。かまぼこ屋さんで作っているんだね。
・UMECO があるね。市民活動センターって書いてあるよ。・ここでイベントをやっているのを見たことがあるよ！
・バスやタクシーがたくさんとまっているね。　・外国の人がたくさんいるよ！
・小田原駅の周りは国道や青物町商店街よりも人が多かったね。どうしてだろう？
・駅の中にもお店がたくさんあったよ。なんでかな？お土産を買っているのかな？　何を買っているんだろう？

地図記号や前回のまちたんけんの経験をもとに、まちの様子について理解することができる。（知・技）

総合的な学習の時間との関連

小田原といえば？（ウェビング）
・みかん・梅・梅もぎ
・魚・かまぼこ・干物
・小田原城・忍者・北条氏など

小田原市にはどんなお土産があるのかな？⑨

早川みかん・片浦レモン・根府川みかん・湘南ゴールド
下中たまねぎ
曽我の梅干
干物・かまぼこ・あんこうカレー
栢山のクッキー・中曽根のキャンディ

資料◇地図・お土産の産地ラベル（早川や曽我、片浦、下中など）

・パッケージの裏に作られた地域名や産地が書いてあるよ。・自分の住所以外の地名が書いてある。
・小田原市にはどんな地域があるのかな？もっと他の地域があるのかな。
・他にどんなお土産があるかな？食べ物以外のお土産も見たことあるよ！
・航空写真を見ると、方位でまちの様子がちがう。もっとくわしく調べたいな。
・地図をみたら小田原市のほかの場所がわかるかな？

資料◇小田原市の航空写真（わたしたちの小田原）・地図

小田原にいろんなお土産があるのは、なぜだろう？
・たくさんの観光客が来るから。
・おいしいものがたくさんあるから。
・いろんなものがとれるから。
・山や海が近いから。

地図で調べてみよう⑩

・小田原市ってこんなに広いんだね！・ワニみたいな形をしているよ　・外側に果樹園がたくさんあるね。・駅の周りに図書館やＵＭＥＣＯ、市役所や警察署などの公共施設があるね。・かまぼこ通りは海の近くにあるね。早川漁港もあるよね。　どこでかまぼこや干物を作っているんだろう？
・酒匂川が通っているね。・道路や海や川の近くに工場の地図記号がたくさんあるよ。　・田んぼが集まっているところがあるよ。・学校もたくさんあるね。

小田原市について関心をもち、学習課題を作る。（思考・表現）

小田原市のことをもっと知りたいな⑪～㉑

総合的な学習の時間との関連

小田原には⑪・㊀・㊁の自然の恵みがあり、歴史もあり、たくさんの魅力がある！

かまぼこについてもっと知りたい！

・魅力がある小田原でとくにかまぼこがゆうめいなのは何でだろう。。
・かまぼこについてもっと調べてみたい。
・自分たちでかもぼこが作れないかな。

くわしく調べよう！

・小田原でとれる魚はどんなものかな。
・どこでとれるのかな。
・作り方を知りたいな。
・自分たちでも作れるのかな
・おいしく作るにはなにか工夫があるのかな。
・あんこうを使ったお土産あったけど、かまぼこの魚だけじゃないんだね。（未利用魚の活用）
・外国の観光客も多かったから、外国人にもよろこんでもらえるかまぼこを調べたいね。

調べたことをを紹介し合おう！

・かもぼこをさらにアピールする方法を考えよう。
・どうやって伝えようかな。
・友だちのいいところはどこかな。
・もっとたくさんの人に広めたいな。
・学校、お家の人、地域の人にも伝えたいな。

実際にかもぼこを作ってみたい！

・どうやってできるか調べてみよう。
・どうやったら作れるか家の人に聞いてみよう。
・見学したり話を聞いたりできないかな。
・自分たちで作れるのかな。

かまぼこについて調べたり体験したりしたことを紹介して、もっと広めたい！

・学校の人や家の人に見てもらいたい。
・ふれあいホールでやってたよ。

・小田原市はどんな形をしているのかな。・トレーシングペーパーで市の形をうつしてみよう。⑪
・犬みたいな形だね。・東西にのびてるね

資料◇地図・わたしたちの小田原
線路と川をかいた白地図

「市の地形と土地利用」

なぜ、市の外側（山側）に果樹園が多いのかな？⑪⑫

・市の外側は久野、片浦、早川、曽我だね。・高いところにあると日当たりもよさそう。・小田原の水は栄養がある。
・斜面だとみかんの木が重ならないから光があびやすい。・果樹は水はけがよいほうが育つ。
・石垣や海からの光が反射して育つよ。・山の高い所じゃなくて少し高い 200～400ｍのところに果樹園が多い。

小田原市の地図の地図記号や土地の使われ方から、気づいたことや気になることをノートにまとめることができる。（思考・表現）

なぜ、川の近くに田んぼや工場が多いのかな？⑬⑭

・酒匂川は大きいね。・ライオンやアマゾンの工場もあるよ・川沿いに工場が集まっているね。・三の丸小の周りとは違うね。・田んぼや工場には水がたくさん使いそう。
・高速道路の入り口が近くにあるね。・線路沿いに工場が多いよ。

これまでの学習で得た知識やまちたんけん、生活経験、資料を根拠に予想を立てることができる。（思考・表現）

なぜ、海の近くにかまぼこや干物のお店が多いのかな？⑮⑯（本時）

・魚がとれるからだよ。（かまぼこや干物の原料）・干物を干すのに、海の近くがいい。
・早川漁港に市場があるよ。（小田原漁港や TOTOCO がある）
・とれた魚を新鮮なうちにかまぼこにできる。・新鮮なうちに食べてほしい。
・町たんけんでかまぼこ屋がたくさんあった。・とれたばかりの魚をすぐに売りに出せる。
・昔から東海道を旅する人たちによろこばれてきた。・海に近いほうが便利だから（山だと運ぶの大変）
・かまぼこはシログチの魚が必要（国語辞典で白身魚でかまぼこができると書いてあった。）
・相模湾で新鮮なシログチやアジがすぐ手に入るし、塩も豊富。地下水がよい。（小田原の水はミネラルをふくむ）・電車が通る道があるから、かまぼこや干物を買える。
・川と海はつながっているけど、川では、かまぼこや干物の魚とれないよ。
・酒匂川の近くは、田んぼや工場の地図記号が多いよ。

調べたことや友だちの考えから地形の様子と土地利用を関連づけて考えることができる。（思考・表現）

資料◇地図・インターネットの資料や写真・図書室の資料・わたしたちの小田原・観光パンフレット・インタビュー（家の人や学校）・国語辞典

なぜ、小田原には線路や道路がたくさんあるのだろう？⑰

「交通の様子」

・町たんけんで大雄山線、東海道線、東海道新幹線、小田急線、箱根登山線があったよ。
・お家の人は遠くの仕事で新幹線を使っているよ。
・線路や道路が多いと、便利だから観光客もたくさん来れるよ。
・古くからある建物を見に来る人もいるんだね。
・高速道路が近いと工場などでできたものもはこびやすいね。

土地利用と交通を関連づけて考えることができる。（思考・表現）

「小田原の歴史を伝えるもの」

古くからあるものは、どんなものがあるのだろう？⑱

・小田原城など有名なものがある。・図書館に歴史の本がありそうだね。
・UMECO に建物や歴史の場所がのった観光パンフレットがあったよ。
・歴史で有名な人や建物がある。・町たんけんで近くに文学館もあった。
・昔からのお土産屋さんがたくさんある。松原神社もあるよ。
・小田原宿で宿泊する人のために土産物が多くあり、今も残っている。
（かまぼこ・ういろう・ちょうちん）

小田原に古くからあるものを調べることを通して、今もなお伝統を引き継がれていることに気づくことができる。（知識・理解）

「市にある公共施設」

小田原市には、どこに・どんな公共施設があるのだろう？⑲

・公共施設はみんなが利用し、生活しやすいための施設だからもっとあるよ。
・小田原市は広いことが分かったから、ウメコのような施設は他にもありそうだ。（マロニエ）
・ミナカ以外にも図書館もあるんじゃない。（かもめ図書館など）
・パンフレットやマップを置いて、小田原のいい所や観光地、参加できるイベントの紹介もしているよ。

人々の生活と関連づけて、公共施設の使われ方について理解することができる。（知識・理解）

小田原紹介マップにまとめよう⑳㉑

これまでの学習を生かし、市の特徴を関連づけてマップにまとめることができる。（思考・表現）

６．本時について

本時目標　　小田原市における海の近くの土地の使われ方について地形の様子と土地利用を関連付けて話し合うことができる。

学習活動	主な支援・留意点　◆評価【観点】
なぜ、海の近くにかまぼこやひもののお店が多いだろう。 土地 ・海が近い。 ・海と川のさかいでは、魚がよくとれる。 ・地下水はミネラルが豊富。 ・新鮮なまま運ぶことができる。 れきし ・東海道を旅する人たちによろこばれてきた。（おみやげ） →長持ちしやすい ・かまぼこ通り 【ステージ１】グループで伝える 【ステージ２】他のグループをまわる 前半「見るタイム」 相違点を見つける。 後半「聞くタイム」 くわしく聞き、関わり合う。 まとめ ・海が近く、新鮮な魚がよくとれる。 ・昔から長持ちするおみやげとして有名だから。 次回 なぜ、小田原には線路や道路がたくさんあるのだろう？	・黒板は児童がわかりやすいように子どもの考えをカテゴライズしていく。 ・ワークシートを活用して、調べたことの共有やまとめが書けるようにする。 ・「発見！カード」に書いたことをグループで発表するときに、「伝え合いのメニュー」を使って、全員が話せるようにする。 ・分かったことや考えたことを、地図や資料を根拠に話せるように促す。 ◇焦点化のポイント ・分かったことを全体で共有する。 （児童の言葉を板書整理→めあてに立ち返らせ、まとめへ焦点化） ※子どもたちの言葉でまとめを書かせたい。 ・「海が近い」だけが、かまぼこ作りがさかんな理由なのか問い返す。 ◆海の近くの特徴について調べたことから、地形の様子と土地利用を関連づけて考えている。 【思考・判断・表現】

７　実践を終えて

〈成果と課題〉

（１）　本時での様子

導入で小田原のお土産を紹介したことで、小田原市の地名や地図を見ることに、子どもたちは必要感をもって取り組めた。それにより、「地図を何に注目して見るか」を子どもたちと話し合い、子どもの思考の流れに沿って学習を進めることができ、本時の「なぜ海の近くにかまぼこやひもののお店が多いか。」につながった。また、学習形態を「個人→グループ→全体」にする中で、学級の実態を考え「個人が考えをもてるように学習カードをもとに調べる」、「グループで話し合いから他のグループを見に行く」の２点を繰り返し行った。それにより、一人一人が意欲をもって調べ学習に取り組み、自分と同じ考えがないか、新しい発見があるかと、進んで考えの共有（話し合い）をすることができた。

ただ、学習活動のステージを分けることで、全体での話し合い（まとめ）が同じ内容になってしまったり、子どもの集中が途切れてしまったりすることが課題として残った。また、課題の内容とは違った考えが中心で話し合いが進むことがあった。

（２）　授業後の実践

本時と同じ形態での学習活動を繰り返し行ってきたので、子どもたちは見通しをもってその後の学習も進められた。なかなか考えが書けなかったり、友だちと考えを共有できなかったりした子どもたちも、進んで活動できるようになった。また、子どもたちが個人で調べた考えを、話し合いの前に教師が把握し、意図的な指名を本時以上に生かせたことで、課題の内容に焦点化して話し合いを進めることができた。

（3） ブロックテーマとの関連、教師の出どころ（重点項目）

課題の文言によって子どもの考えが広がりすぎてしまうことがあり、話し合いが課題からずれることもあるため、子どもたちの考えが「課題に合った考え」なのか教師が事前に把握し、焦点化した話し合い活動ができるようにする必要があった。また、子どもの考えを計画的にカテゴライズして板書することで、より子どもたちの意欲的なふりかえり活動につながるが、広がった意見をまとめることが困難だったため、板書計画に課題が残った。

単元を通して、「一人一人が考えをもてること」「自分以外の考えに目を向けること」の２点の基礎を育てる手だてを考え、重点的に行ってきた。ブロックテーマの「自分の問題をとことん追究する姿」「仲間と協働して追究する姿」を育てることにつながった。これから、「課題に合わせて、調べたり考えたりする」「友だちの意見と比べる」など、より発展的な力が身につけられるよう、継続的にひびき合いにつながる活動をしていきたい。